

令和6年度 幼児・児童教育研究センターの取組

幼児・児童教育研究センター 所長 古川元視

幼児・児童教育研究センターは、昭和56年（1981年）に設置され、別府大学短期大学部の研究活動の拠点として41年間歩んでまいりました。センターの主な内容としては、1 幼児・児童の発達とそれに応ずる教育の研究、2 教育課程・保育課程及びその指導方法等の研究、3 教材・教具の開発、製作指導及び資料の提供、4 幼児・児童教育に関する資料・図書等の収集、整理提供、5 幼児・児童の教育に関する講演会等の開催、6 地域における子育て支援事業、7 幼児・児童に関する相談事業、8 その他センターの目的達成のために必要な事業があります。

今年度は、8月7日（水）に公開講座を初めて学外のコンパルホールにて実施しました。実践発表は、佐伯市立切畑小学校 一丸奈那教諭による「登場人物の気持ちの変化をとらえて、感想にまとめよう」、明星小学校 宇都宮輝学校司書による「これからの学校図書館」でした。その後、「ICTを活用した読解力と記述力をたかめる授業づくり」をテーマに元文部科学省小学校国語教科調査官及び国立政策研究所学力調査官、前京都女子大学 井上一郎氏に講演をしていただきました。（講演会資料の掲載はありません）県内外から130名を超える参加者があり、大盛会で終わることができました。

また、10月26日（土）の午前中は、別府大学附属幼稚園、大学において、「“やってみたい”から夢中になって遊び込む子どもを目指して」というテーマで公開保育及び分散会を実施しました。午後からは、別府大学メディアホールにて、「子どもの世界の探究～遊びこむ・育ち合う～」をテーマに国立大学法人お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション 宮里暁美特任教授による講演会を実施しました。（講演会資料の掲載はありません）県内から100名程の保育者や幼稚園教諭の参加があり、活発な意見交換がありました。

11月13日（水）、2月5日（水）は、明星小学校において、「主体的な探究力の育成stageⅢ『児童が自ら問いを立てる姿』と『探究に向かう教材との出会いの工夫』を求めて」というテーマで授業公開研究会を実施しました。授業公開、その後、情報交換会、講演会でした。明星小学校の先生方の授業に向き合う姿勢に心が打たれました。校長先生はじめ全教職員の皆様に感謝申し上げます。

実践報告は、境川保育園、春木保育園、別府大学附属幼稚園、明星幼稚園、明星小学校の先生方から、研究論文は、別府大学短期大学部教員から提出されました。今年度初めて、学外から大分市立大在野小学校阿部恵夢先生、杵築市立大内小学校川浪空也先生による特色ある授業実践も掲載しております。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成校としての教員の実践報告も御覧いただけますとありがたく存じます。

今年度も本学の松崎准教授、針金准教授、齊藤講師による「子育て相談」を実施しました。昨年度より多くの方々が相談に見えられました。

また、本学と明星小学校、附属幼稚園、明星幼稚園との連携プロジェクトを推進しております。連携を深めることで、研究を推進し、教職員の資質向上に寄与するものと考えております。連携の内容についても本レポートをご覧ください。

これからも、当センターでは、研究活動の拠点として様々な活動を行っていく予定です。奮って御参加いただきますようお願い申し上げます。